

出題のねらい

公募制後期の国語は、現代文2題の出題です。一問は文学的文章、もう一問は説明的文章です。㊦文学的文章は、宮下奈都「転がる小石」(『遠くの声に耳を澄ませて』所収)から出題しました。「私」と「陽子ちゃん」は、近所のパン屋のパン教室で出会います。軽い気持で参加した二人でしたが、本物を作り出すことの凄さとそれを成し遂げる人の真摯さに打たれたという共通点から気持が通い合っていきます。作品は、語り手である「私」が、陽子ちゃんの言葉や様子を自分の気持や視線を通して描くことで紡がれていきます。ですから、「私」の気持や考えそして「私」の目を通して見えたものを、表現に則して丁寧に読み解くことが重要です。

㊧は論理的文章です。現代の日本を代表する劇作家・演出家であり、大阪大学大学院や東京芸術大学などで教鞭もとられている平田オリザ氏の近著『下り坂をそろそろと下る』から出題しました。論旨は明晰で、文章も歯切れがよくて分かり易いものです。抜粋した分量も、新書で見開き2頁強と短いので、問題文としては受験生からすると取り組みやすく思えたのではないのでしょうか。その印象は必ずしも間違いではないのですが、本年度から記述問題を重視することになりました。単なる抜き出しや要約ではありません。問題文を複数回熟読した上で、自分なりの文章を書く能力が問われています。



【解答】(50点)

問一	a 素朴    b 無骨(武骨も可)    c 優雅 d 放心    e 簡単	(各2点×5)
問二	イ	(4点)
問三	エ	(4点)
問四	ウ	(4点)
問五	地道な作業を淡々とこなす(人)	(4点)
問六	イ	(4点)
問七	地道な作業をやってはじめて本物が作れると いうことがわかり、自分たちの考えの甘さに 気づいたから。	(8点)
問八	オ	(4点)
問九	(1) エ (2) ア	(4点) (4点)

【解説】

問一 書き取り問題は、b無骨以外はよくできていました。bに関しては武骨も正答としました。誤答としては、不骨が目立ちました。

問二 「上等」がどのようなことを意味しているのかを読み取る問題です。よくできていました。本文中の「小麦と水と天然酵母だけで焼かれるソボクなパン」「特に宣伝しているわけでもないのに客足は途絶えない」「普段着で、ひとりで買いに来る女性客が多い」という表現から読み取れるのは、質のよいものは宣伝しなくても人が買い求めに来るということです。イ以外の選択肢には、本文には書かれていないことも含まれていますから、消去法的に除外されます。

問三 「つるつるした感想」とは、とげとげしたりひっかかったりするところがないということでしょう。ほかの参加者も地道で厳しい重労働に疲れ切っているはずなのに、楽しいとか、おいしかったとか、感動したとか、耳に聴きよい「あたりさわりのない」感想を次々に述べていきます。正答はエです。半分ほどの出来でした。誤答としてはア「あたりまえ過ぎて、言う必要もないつまらない感想」というのが目立ちました。しかし、傍線部②のあとには、参加者たちの感想を否定する言葉が続いていますから、「私」はこれらの感想を「ありきたり」と思っているかもしれませんが、「あたりまえ(当然のこと)」だとは思っていないことがわかります。

問四 心情をつかむ問題です。よくできていました。パン作りが予想外の重労働であったこと、そして参加

者が順々に述べて行く感想は、「私」の感じたパン作りの厳しさには一言も触れない、耳に心地よい感想ばかりです。そのうち、「私」が感想を言う順番も回ってくるでしょう。その時「私」はどんな気持ちになるのでしょうか。正答はウ「戸惑った」です。もし選択肢の中で迷うとすれば、アの「驚いた」でしょうが、「私」の心情はもう少し複雑なようです。ア・ウ、どちらであるかを決定するのは、その四行あとに「私はうつむいていた」とあることから導き出されます。ありきたりの感想ばかりが出てくる中で「私」は孤立感を深めていき、一体どういう感想を言えいいのかわからなくて「戸惑う」というわけです。

問五 よくできていました。

問六 心情を読み取る問題です。まずまずの出来でした。誤答としてはエが目立ちました。もちろん、「私鉄で二つ先の駅に住んでいる」とありますから「近くに住んでいる」ことは確かなのですが、「広い空の下でひとりぼっちだ、という気がした」のは、単に「この後会えるとはかぎらないから」ではなく、イ「同じ価値観を共有できる人に出会えること」の難しさを言っているとみるべきでしょう。パン作りという共通の目的をもった十数人の参加者の中で同じ価値観を共有し合えたのは「陽子ちゃん」だけだったからです。

問七 「パン教室に参加して精神的な衝撃(ショック)をうけたのはなぜか」という問題です。ポイントは二つあります。一つは「適当にやっていたは本物は作れない」逆に言うと「地道で厳しい作業をやればじめて本物が作れる」ということ、もう一つは「自分たちの考えの甘さに気づいた(気づかされた)から」という点です。「篩にかけ、小麦を延々とかきまわし、フスマを取りのぞかなければならないから」というような解答もありましたが、あまりにも具体的過ぎます。内容はある程度抽象化してとらえる必要があります。「地道な作業を淡々とこなす、すごい人がいるとわかったから」というような解答もありました。まちがいではないのですが、すごい人がいると分かったらなぜ衝撃をうけることになるのでしょうか。どういう心の変化があったのかも書く必要があります。

問八 語句の意味と文脈理解を合わせた問題です。「資質」という言葉になじみがなかったのか、正答はほとんどありませんでした。誤答としては、エやアが多く見られました。私と陽子ちゃんは、その他の参加者とは違う共通の感性で結ばれているこ

とが書かれています。同じ出来事を体験してもそこに何かを感じるかどうかはその人が生まれつき持っている性質に拠っているのであって、エ「勇気」とかももちろんア「経験」とかいうものではありません。

問九 登場人物の人物像を読み解く問題です。全体として半分ほどの出来でした。陽子ちゃんについては、誤答として、イ「どんな場面でも、思ったことをはっきりという率直な人物」を選んだ人が目立ちました。しかし、本文からは「どんな場面でも」かどうかはわかりませんし、「思ったことをはっきり」とか「率直」というようなストレートさではなく、むしろ、パン屋での感想や「私」との会話の場面から考えれば、時間がかかっても自分の考えや思いから目をそらさず真正面から向き合いそれを表現する人物だということが読み取れます。

「私」についても、オを選んだ人が半分ほどいました。たしかに「私」は同じ価値観を持つ人(陽子ちゃん)を大切に思っていますが、陽子ちゃんの涙に「とっさに目をそらし」たり、陽子ちゃんの素直さを「うっとうしいと思った」ところからすると、必ずしも「愛情にあふれた人物」と単純に言うことはできないでしょう。また、自分の考えはきちんと持っていてそれを大事にはしているけれど、人と意見が違うことに戸惑って「うつむいていた」り、パン屋での感想を言葉にしているのは陽子ちゃん、私はただそれに「うなずいて」いるだけだったりするところからすると、「私」は自分の考えを「表に出せない人物」であることが読み取れます。表現を細かく読んでいくことが大切です。



【解答】(50点)

問一	a 圏	b 再三	c 開催	
	d 請願	e 稚拙		(各2点×5)
問二	ア			(4点)
問三	インターネットが、そうとうに偏った情報しか流さないものであること。			(5点)
問四	(1) ア	(2) ウ	(3) イ	(4) エ (各2点×4)
問五	ア			(4点)
問六	表が偶数で裏が緑			(4点)
問七	エ			(4点)
問八	ひどい場合			(4点)
問九	ネット上では、自分の主張に都合のいい情報、自分が下した判断を後押しするような情報だけを集めることができるから。			(7点)

【解説】

問一 aの圏とcの開催はよくできていましたが、b再三 d請願 e稚拙のときは悪く、特に稚拙の正解率の低さが目立ちました。誤答もここには挙げきれないほどありました。本学の入試問題には必ず漢字を出題することは、オープンキャンパスの入試説明会でも毎回伝えてあります。画数の多い難字よりも、日常よく目にする字を出題するようにしています。

問二 半分ほどの正解率でした。空欄部Xのすぐ後に、「このメディアは…そうとうに偏った情報しか流さない」とあります。では「世界中と情報を共有している」のは？ 少なくとも負の評価を示す語が入るはずです。

問三 傍線部①の五行前に「卑近な、わかりやすい例を挙げておく」とあります。この例が傍線①までに書かれています。何の卑近なわかりやすい例か、ということはその直前に書かれています。抜き出しに近いやさしい設問なのですが、5点満点は少数でした。「偏った情報」以外に「都合のいい情報」、といった解答も部分点を付けましたので、零点はすくなくなりましたが。

問四 4箇所の空欄部に対して選択肢も4つですから、よくできていました。補充した後、もう一度全部を確認する余裕があれば、確実に点の取れる設問です。

問五 5割程度の正解率でした。傍線部②を含む段落(形式段落)を的確に読めているかを問う設問です。途中に「マスコミまでもが」という語句があります。これは「ネットだけでなく」マスコミまでの

意ですから、イとエの選択肢はなくなります。残るアとウの内から、より適当な選択肢を選ぶことになります。単に刺激的で新しい事件ばかりを追うというのでは(当たり前です)、非常に情けないとは言わないでしょう。

問六 この設問は読解力よりも論理的思考力を問うものです。新しいタイプの問題と言えます。すぐ正解が導き出せた人は地頭のいい人です。難しいと思った人は納得できるまで、正解とにらめっこしてください。解答は原文から抜き出したものですが、「裏が緑で表が偶数」も勿論正解です。「が」を飛ばしていてもかまいません。正解率は3割ほどでした。数字を入れた解答が多くありました。

問七 この設問、実は問九の伏線でもあります。「確証バイアス」とはどういうものか確認させる、というねらいがありました。4択で6～7割の正解率でしたから、かなりのできと言えます。「反例」(反証も同じ意味で使われています)を探せないわけですから、正解はエとなります。

問八 傍線部③に続く一段落から、最も具体的に書かれている一文を抜き出すだけです。ごくごくやさしい設問です。3割ほど誤答があったのは、考えすぎでしょうか。

問九 60字の作文、これは文章力を問う設問です。このキーワードが入っていれば何点といった採点はしていません。問七で確認した「確証バイアス」にとってネットのどういう特質が都合なのか、という答えが書かれているかどうかです。解答は正解例の一つに過ぎず、様々なバリエーションがあります。相当文章は異なりますが、「自分の主張や下す判断自体が、インターネットの偏った情報の影響を受けて形成されることになるから」も正解です。7点満点もかなりありましたが、日本語として体をなしていないような解答はどんどん零点にしました。主語が省略され、しかもその主語が途中で変わるといった読みにくい解答も随分多くありました。普段から、自分の考えていることが、読み手に正しく伝わるような文章を書く練習をしておく必要があります。